

ロボットスーツ 高い需要

医療機器卸の増田医科器械(京都市伏見区)は、サイバータイン(茨城県つくば市)が開発・製造しているロボットスーツ「HAL」のレンタル取り次ぎ台数を2016年6月期に前期比3倍に引き上げる。京都、滋賀を中心に医療・福祉の現場でリハビリ支援用などの需要が伸びているため、近く営業体制を大幅に拡充する。

増田医科器械は昨年3月に近畿の正規取次店となり、京都、滋賀は独占契約している。15年6月期は京都大医学部付属病院などに9台を取り扱ったが、16年6月期は30台以上を目標に掲げた。

今後は、装着などを実演する担当者も現在の1人から4人に増やし、

増田医科器械 レンタル取り次ぎ目標3倍に

担当者増員、メンテも注力

増田医科器械が京滋で独占供給しているロボットスーツ「HAL」(京都市伏見区)



納入後のメンテナンスも一段と注力する。社内の営業担当者約250人

のネットワークを生かして広く情報提供するほか、展示会やセミナーでの紹介や営業端末を使った説明などを推進する。

営業本部は「患者や病院の役に立つ製品であり、リハビリ用に急性期から回復期までの幅広い医療機関に提供したい」としている。すでに申請済みの薬事承認を得ることができれば、さらに需要が増えるとみている。

HALは、装着者の足などに貼ったセンサーが脳から筋肉に伝わる微弱な電気信号を読み取り、装着者の意思通りに動く。10年に商品化し、脳疾患患者らのリハビリ、介護や建設などの作業支援などで約400台が稼働している。ソフトウェア更新などが必要なため販売はしていない。

(猪口健司)